

【平成31年度 第46回卒業式 校長式辞】



本校の木々の^{つぼみ} 蕾もほころび始め、春の息吹が感じられるこの佳き日に、東京都立府中東高等学校 第46回卒業式を挙行できますことは、卒業生はもとより在校生、教職員にとりましても、大きな喜びでございます。

本来でしたら、保護者・ご家族の皆様をはじめ、日頃から本校の教育活動に深いご理解と温かいご支援を頂いている地域の皆様、同窓会、PTAの皆様をお迎えして、共に卒業をお祝いできることを楽しみにしておりましたが、新型コロナウイルス感染症^{かたせましやうがくたい}拡大を防ぐため、東京都の方針を受けて、卒業生と教職員のみで卒業式を挙行することとなりました。

式の出席者は限られたものとなりましたが、

今、卒業証書授与において卒業生303名の、人生の節目を迎えた決意を込めた一人ひとりの返事を確かに受け止めました。改めて303名の卒業生のみなさん、「卒業おめでとうございます。」

皆さんは、平成29年度・第46期生として本校に入学しました。

1年生の1学期間を旧校舎で過ごし、2学期から今日まで、この仮設校舎で学んで来ました。学校生活を送る中で、不自由さを感じたこともあったことでしょう。

しかし、皆さんは本校の教育目標にもある現状を嘆くのではなく「創造する力」、主体的に考えて行動する力を見事に発揮し、学校生活を充実したものに変わって行きました。

正に周囲や環境のせいにせず、自分の頭で考え、行動し、改善していく力を、この2年半の仮設校舎での学びで身に付けたのです。

1学期の始業式でも話しましたが、私も高校生活の2年間をプレハブ校舎で過ごしました。私が過ごした思い出深い学び舎は既ありません。でも、3年間お世話になった先生方への深い感謝の心と、苦楽を共に過ごした級友との友情が心に刻まれて、この胸に確かに残りました。

高校を卒業して40年近く経^たった今でも、毎年、同窓会を企画して旧交を温めています。80歳を迎えた恩師も毎年楽しみに駆けつけてくれます。^{あかし}の「絆」は私が高校時代、確かに今は無き仮校舎で過ごした証であり、私の掛け替えのない大切な宝物です。不自由な環境下で、共に汗を流した友情は堅いのです。これは、皆さんも同じだと思います。

同期生の中には、卒業後、年月を重ねて、友情から、何れお互いを慈^{いず}しむようになり、人生を共に歩むことになった友達もいます。人生は、どんな素敵なことが待っているかわかりません。ですから自律して自分を磨き続けてください。

この仮校舎は、今年9月にはその役割を終え姿を消しますが、三年間導いて下さった先生方から学んだこと、共に過ごした友達との友情と大切な思い出は永久です。

さて、本日、式場に保護者・ご家族の方はいらっしゃいませんが、過日配布したご家庭へのご案内で、今、この時間に卒業式が挙行されていることはご存じだと思います。ある方はご家庭で、ある方は仕事場から、この式場に繋がっている空を見上げて、卒業式に臨んでいる我が子に思いを馳せているに違いありません。

私はそのことを信じて保護者、ご家族の方々にお祝いの言葉を届けたいと思います。

卒業生の保護者・ご家族の皆様、お子様が高校生活を送られた府中東高等学校での3年間、語り尽くせぬ多くの喜びと、ご苦労があったことと思います。お子さんに注がれた惜しめない深い愛情が、ここに実を結び、お子様が人生の節目を迎えられたことに対し、深い敬意と感謝の気持ちを込めて、お祝いの言葉を申し上げたいと思います。「保護者、そしてご家族の皆様、お子さんは立派に成長しました。お子様の御卒業、本当ににおめでとうございます。」

卒業生のみなさん、帰宅してから、みなさんを育ててくださった保護者、ご家族の方に、声を出して感謝の言葉を伝えて下さい。

「ありがとうございます。」と。

照れくさくても伝えておきましょう。今日は人生の大切な節目です。

これから始まる長い人生、目標が達成できなかつたり、悔しい思いをすることもあるでしょう。しかし、オリンピック・パラリンピック講演会で、永島 秀明さんが仰っていました。

少年時代、野球が大好きで一途に打ち込み誰よりも多くの練習をして、その努力は誰にも負けなかった。でもレギュラーになる夢は叶いませんでした。しかし、野球を通して学んだ「誰よりも努力する。」という才能が、何れ、ハンドボール日本代表のキャプテンを任されるという新たな夢として開花したのです。時には夢破れてしまってもその努力でも決して無駄ではない。

形を変えて次の夢に生かされるのです。

私は昇降口のお祝いメッセージに次の言葉を書きました。

『チャレンジ・勝負に「負け」と言う言葉はない。あるのは「勝つ」とことと「学ぶ」とことだけだ。』これを皆さんへの私からのなむけの言葉としたいと思います。

皆さんは3年間、勉強は勿論のこと、学校行事や部活動その他様々な活動において、常に挑戦し続け素晴らしい成果を残し、府中東高等学校の歴史に新たなページを書き加えてくれました。そして、その姿が私たち教職員に多くの感動と、府中東高等学校で勤務することのやり甲斐と喜びを与えてくれたことに対して、心から感謝します。

本当にありがとう。

最後に卒業生303名の門出を祝い、

前途に幸多かれと祈りつつ、式辞と致します。

令和2年3月6日
東京都立府中東高等学校長

古 閑 のぶ ゆき
伸 幸



▲ 担任から卒業生へ、心のこもったメッセージ ▼ ▲



▲ 全教職員から卒業生へ、卒業を祝う寄せ書き ▲





同窓会から卒業生へ送られたお花



PTA から卒業生へ、記念のお菓子